



—東地中海地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍兵士の解放とパレスチナ人囚人の釈放（2）

2011年12月18日、イスラエルは、ハマースとの捕虜・囚人交換合意（10月11日）に基づき、第2陣となるパレスチナ囚人550名を釈放した。同550名は、東エルサレムを含むパレスチナ自治区またはヨルダンに帰還した。41名の囚人は、ガザ地区入りした（19日付パレスチナのアル・クドゥス紙他）。同日、ガザ地区のハマース報道官は、捕虜・囚人交換合意が全て履行されたことを確認した（18日付パレスチナ情報センター）。

10月18日に釈放された第1陣のパレスチナ人囚人477名は、ハマースまたはイスラーム聖戦のメンバーで、終身刑に科せられていた人物を多く含んでいた。一方、今次釈放の対象者は、軽犯罪者のファタハ・メンバーが中心であり、半数以上が禁錮4年もしくはそれ以下に処されていた。ガザ地区のハマース報道官は、550名のうち41名のみがハマースのメンバーであったことについて、イスラエルがガザ地区を罰しているかのようであると発言した（18日付米NYT紙）。

ハマースの軍事部門とされるイッズッディーン・カッサム部隊は、12月18日に記者会見を行い、上記捕虜・囚人交換合意の履行後も「占領当局」の刑務所にいる全ての囚人を釈放するべく、あらゆる手段を講じていくとの立場を表明した。同部隊は、イスラエル軍兵士1名と引き換えに、ハマース側全囚人の20%に相当する人々を解放したと述べた。

パレスチナ自治政府のアッバース大統領は、12月21日、訪問先のトルコで、上記捕虜・囚人交換合意に基づき、イスラエルの刑務所から釈放され、トルコに国外追放された「テロリスト」11名と面会した（21日付イスラエルのエルサレム・ポスト紙他）。

（研究員 江崎 智絵）